

社会で求められる人材になるために
—中学生にできること、働くことについて—

経済同友会 会員
林 明 夫

Q1：本日の講義の目標は何ですか。

A：社会で求められる人材になるにはどうしたらよいかを考え、また、中学生にできること、働くことについて考え、今後、自覚をもって中学校生活を送ること。

Q2：中学校時代に好きなことばはありましたか。自己紹介代わりに教えてください。

A：(1)「練習で泣いて、試合で笑え」…柔道部部长、椎名弘先生
(2)「ブルドッグ魂(食いついたら離すな)」…中2・中3のクラス担任、岡田忠治先生
(3)「学問に王道なし(There is no royal road to learning)」…ギリシアの数学者、ユークリッド

Q3：どのような仕事や活動をしていますか。

A：(1)株式会社開倫塾 塾長(本社足利市、栃木県・群馬県・茨城県)：サービス業
(2)マニー株式会社(手術用縫合針製造、本社宇都宮市、海外はハノイ、ヤンゴン、ビエンチャンに拠点)顧問、元社外取締役：製造業
(3)社会福祉法人両崖福祉会 特別養護老人ホーム清明苑 理事(足利市)：介護サービス
(4)学校法人有朋学園 有朋高等学院 理事長(福島市)
(5)宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授(宇都宮市)

Q4：現代はどのような社会だとお考えですか。そこで求められる能力は何だとお考えですか。

A：(1)知識社会 →知識・情報・技術を組み合わせて用いる能力
(2)グローバル社会→多様な集団で交流する能力
(3)課題山積^{さんせき}社会 →自律的に活動する能力

Q5：中学生にできることは何ですか。

A：(1)学習の仕方を身に付けること
①「理解の仕方」を身に付けること
・授業の受け方
・ノートの取り方、整理の仕方
・予習の仕方
・辞書の使い方

②「定着の仕方」を身に付けること

- ・音読練習
- ・書き取り練習
- ・計算・問題練習

*「練習は不可能を可能にする」(慶應義塾塾長 小泉信三先生)

(2)①読書により思慮深さを身に付けること

*「書き抜き読書ノート」

②新聞により自分で考える力、批判的思考能力を身に付けること

*「スクラップブック」

(3)中学校の勉強は上の学校でも、仕事の上でも、社会に出てからも役に立つ。一生役に立つので、学校の教科書や教材、ノートなどは処分しないで保存し、卒業後も折に触れて読むこと。

(4)中学校での教科以外の活動も卒業後役に立つ、一生役に立つので、すべての活動にしっかりと取り組むこと。

Q 6 : 仕事とは何ですか。人は何のために働くとお考えですか。

A : (1)すべての仕事にはお客様がいます。

(2)仕事とは、お客様の困っていること・お客様の問題を解決すること。仕事とは、お客様のお役に立つこと。お客様のお役に立つことで社会のお役に立つこと。

(3)仕事をするすることで、生活できるだけの収入を得ることができること。私はそのように考えます。

Q 7 : 最後に一言どうぞ。

A : (1)仕事で大切なのは「自己責任」、「自助努力」、「あきらめたらおしまい」、「自分の未来は自分で切り開く」と「フェアプレイ(ルールの中でプレイする)」の精神。

(2)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

(3)「元気なあいさつ」(家族全員で)

(4)5S(ごえす)

①整理(いらぬものを処分する)

②清掃

③整頓(ものは決まったところに置く)

④清潔

⑤躰しつけ(人に言われなくても進んでやる)

(5)健康第一(心の健康、身体の健康)―お体を大切に―

Q 8 : 御質問にお答えします。どうか御自由に御質問ください。

以上

*御清聴を感謝します。

— 2013年6月11日記 —